
東方幻魔

抹茶ごまぞう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方幻魔

【Nコード】

N2832P

【作者名】

抹茶ごまぞう

【あらすじ】

ある男が東方の世界で生きて行くお話です

いじどいじと回想（前書き）

読む前に

初めての小説作りです。駄文かもしれませんがよろしく願います

いじやいじと回想

やあ俺の名前は霧夜きりや 氷フリーひょうの占い師さ！

うん、ごめん現実逃避してた。よし冷静になろう。

うん、ここどこだよ？

周りを見ても怪しげな木ばかり

どうしてこうなった？少し回想してみよう

回想~~~~~

氷「……をすればあなたに幸運が訪れるでしょう」

客「わかりました。占いありがとうございます。」

今日も学校が終わりバイトの占いをしていた。

氷「ふ〜やっと終わった〜」

バイトが終わって夕食の食材を買おうと町にいき道路で信号まちをしていた。

すると小さい子供が信号が赤なのに信号を渡っていた。

子供を勢いよく突き飛ばした。

『やっぱ……』

衝撃が来ると思い目をつぶった

………あれ？いつまで立っても衝撃が来ない…目を開けると全く知らない場所にいた。

自分の目の前には自動車が迫っていたそこに1台の自動車が迫っていた

すると自分の体が自然に動いていた

冒頭に戻る……

そのころもこの世界では
一人の男が姿を消した。
いや、存在自体が消えた。

序章

「はぁ…起きたことはしょうがないか…」

とりあえず自分の持ち物チェックしないと…

持ち物

財布（買い物するつもりだったからな）

ランプ&タロットカード（占いするのに必需品だぞ）

藁人形&五寸釘（うんあれだ、占いと一緒で呪い関係もやっていたからだ）

携帯（圏外のような）

板チョコ（食料あつて良かった）

これぐらいか

この森？からでて人に会わないとな

荷物をしまい歩き始めようとすると前方に猪っぽい生物がいた。

「なんだこいつ？」

するといきなりこちらに突進してきた。

「うわっ！？あぶね、逃げないと」

猪もどきは俺が逃げようとするともた突進してきた。それを回避して猪もどきが横を通過した時蹴りをいれてやった。すると数十メートル吹き飛んだ。

え……………（。□。；）

何これ？えっ俺こんなに力あったけ！？

猪もどきが吹き飛んだ所まで行ってみると猪もどきが横に倒れてて死んでいた。

試しに木に向かって蹴りを入れてみると木がへし折れた。

……………うんあれだ俺の基本スペックがかなり上がってる…

次に木を殴って見たところ殴った所が陥没した

……………俺人間！？

はあしょうがないとりあえず人に会わないとな

人さがし

あの後とりあえず森？をでて人を探していた

1時間後~~~~~

まだ人一人見つからない

そこから更に3時間後~~~~~

変な狼みたいなのやつはみたが

まだ人と出会えない…

えっその狼はどうしたって。

ああ、狼みたいのが襲って来たが返り討ちにしてやった。

更に2時間後~~~~~

はあはあ

やっと村が見つかった。どんだけ運なかったの普通にあっだし、でもその村をみると古いような気が…

まあとりあえずあそこにいる人に此処はどこか聞こう！

「あの、すみません、此処って何処ですか？」

「ここか？ここは出雲と言う国たべ」

うん？出雲？出雲と言えば中国地方にある市の名前だよな？

「お前さんは旅人か？それにしても可笑しい服装をしてるな」

可笑しい服装？何処が？普通の服装だぞ？よく見ると声を掛けた人の服装をみると古い昔の人がきてそうな服を着ている

まさか……

「どうしたんだ？」
声を掛けられた

「すみません、考えごとしてました。それより今は何年かわかりますか？」

するとその人は
「可笑しい人だな。今は……あれいつだったかな？……最近平安京に都が移ったばかりだから……ブツブツ」

平安京に都が移ったばかりだと……
と言うことは

タイムスリップしてしまったｗｗｗｗ

これからどうしよう？

すると

「すまん儂も忘れてしまった。」

と人が言ってきた

「わかりました。すみません。わざわざありがとうございました」

「いやいや儂は何もしておらんよ。ところでもう夜が近い夜には恐ろしい妖怪がこの辺をうようよする。儂の家でよければ泊まってゆぐがいい」

ん？妖怪？

「妖怪ですか？」

「うむ、この辺は夜になると人を食べてしまう妖怪がいる」

妖怪か…妖怪なんて実在するのだろう…もしかして一番始めにあった猪もどきやら狼みたいのが妖怪だったのだろうか？

まあこの人が言つとおりにしとくか。

「よければ泊めって下さい」

「儂は構わぬ。ついてこい」

そして夕食もこの人にお世話になり今日は寝て終了した

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2832p/>

東方幻魔

2010年12月4日07時28分発行